同志社クローズ・アップ

安中市・学校法人同志社連携協定事業　安中・同志社新島講演会

法人部

法人事務部

2024年6月22日、群馬県安中市の新島学園中学校・高等学校礼拝堂において、安中・同志社新島講演会を安中市と共催した。「安中市・学校法人同志社連携協定事業」として実施したものである。

開会に際して、同学園の聖歌隊によるミニコンサートが行われ、合唱とハンドベルの音色が来場者を魅了した。その後開会の挨拶に立った八田英二同志社総長・理事長は、新島襄と安中市との関係、新島襄の志が新島学園に息づいていることなどに言及した。

講演会は第1部・第2部からなる。第1部として登壇した百合野正博大学名誉教授は、「新島襄が私学同志社を設立した重要な意味～グレイス教会で頭の中を駆け巡ったこと～」と題して講演した。

監査論を主な研究テーマとし、研究、教育に加え、多くのクラブ活動の部長・顧問などに従事し、学生部長として活動した経験を持つ。百合野氏にとって、大きな転機となったのが2年間のイギリス留学だった。自由、真の

新島学園聖歌隊

八田総長・理事長

百合野大学名誉教授

民主主義、アカウンタビリティ、パブリック（公＝みんな）などの概念を深く考える時間となった。こうした経験から、帰国後、百合野氏は、新島襄の生き方や思想について考えるようになっていった。

２０００年のホームカミングデーでは、新島襄がラットランドのグレイス教会で５０００ドルを集めたことを会計学の視点から論じる講演を行った。同志社の創立１３０周年では、学生部長としてグレイス教会とアーモスト大学間の１３０kmを歩くメモリアルウォークを開催した。

百合野氏が知るに至った新島襄の強い思い。「自治自立の人を養成するのが私立大学の特性であり、一国の良心ともいうべき人物を養成したい。国立大の卒業生は国のために働くよう育成されるが、私立大学の卒業生は国民のために働く。新島にとって国民が国よりも大事なのだ」と百合野氏は語る。さらに「新島の遺言に『倜儻不羈（てきとうふき）』という言葉が出てくるんですね。優れた才能を持ち、独立性が高く自由に行動できる気骨のある人物という意味。新島はこうした学生の個性を認めて、大きな人物として育成しなさい、と考えたのです」とも言う。

最後に「新島先生が望んだような民主主義社会が、今後、日本に到来するという期待を持ちたい」と締めた。

次に登壇した本井康博元大学神学部教授は、「安中と同志社～交流１５０年のその先へ～」との演題で講演した。１５０年の起点を、新島がアメリカから帰国後、両親の暮らす安中の地を初めて訪れた１８７４年11月28日としている。そして、同志社と安中における交流のつなぎ役３本柱として有田屋（湯浅家）、安中教会、新島学園を挙げつつ、そこに関わった主要人物について取り上げた。

「新島を迎えた有田屋の３代目当主・湯浅治郎は、功績が大にもかかわらず名前が知られていないのが残念」という本井氏。「湯浅治郎（※1）は、表舞台に立ったり、人前で自慢したりしない。縁の下の力持ち

本井元大学神学部教授

に徹した。「上毛かるた」にも登場しない。私は「縁の下湯浅治郎は力持ち」という読み札を入れたい」とも語った。

新島のごく初期の教え子の一人、高崎出身・松本亦太郎（※2）のエピソードは興味深い。湯浅治郎の長男一郎とともに同志社に入学した亦太郎は、アーモスト大学卒業で新島の後輩に当たる神田乃武が帰国後、官立学校の教授になったことに新島が不平をもらした消息を、著書の中で披露しているという。新島があくまでも「独立、自治」「無位無官」に徹した人だったことを裏付ける逸話だ。

同じく高崎出身の住谷悦治（※3）は、東大出身で同志社総長を務めた。東大紛争の頃、住谷は「この機会に東大など潰れたほうがよい」と語ったという。新島の在野精神や反骨心を受け継いだようなエピソードである。

本井氏は、最後に今後の展開として安中市や新島学園に対して姉妹都市提携、姉妹校提携などの提案を行った。アーモストやラットランド市、アンドーヴァーなどアメリカの自治体に加え、新島脱国時に協力した備中松山藩主・板倉勝静にちなむ岡山県高梁市との交流を提案した。

講演後、共催者として新島学園の湯浅康毅理事長が「150年という時間軸の中で、過去から現在、そして未来へとつながる中で、本校で講演会を開催できたことは大きな喜び」と挨拶。

主催した安中市の岩井均市長は「2025年は同志社創立150周年、そして安中市は合併20周年。うまく連携しつつ新たな展開を図りたい」と締めくくった。

※1　1850～1932。安中教会発足時に受洗。実業家として頭角を現すとともに、衆議院議員となる。新島の死去後、京都に移住、約20年間同志社の経営に奔走した。

※2　1865～1943。同志社英学校を経て。旧制一高、東大哲学科卒。心理学者。京都帝大教授、東京帝大教授を歴任。日本心理学会を創設した。

※3　1895～1987。東京帝大法学部卒。吉野作造門下。経済学者。戦後、同志社大経済学部教授を経て。63年から75年まで総長を務めた。